

【総評】

新型コロナウイルス感染症により日常生活に様々な制限を受けるなど、前例のない事態に直面した受験生の皆さん。おそらくは、不安を感じながらもこれまでの学習の成果を発揮しようと全力で入試にのぞまれたことと思います。本当にお疲れさまでした。高校入試は、中学生の皆さんにとって人生の節目であることは間違いありませんが、最も重要なのは、この経験を今後の長い人生の中でどのように生かしていくかということです。今回の経験が皆さんを強くし、今後の人生の糧になることを祈っています。皆さんの今後の頑張りを影ながら応援しております。

また、保護者の方々も、受験したお子さん同様に（もしくはそれ以上に）不安を抱きながら過ごされていたことと思います。本当にお疲れ様でした。

以下、今年の入試について簡単にコメントいたします。

【難易度】

5教科の合計としては、昨年よりやや易の水準と考えられます。教科別に見ると、数学・社会を中心に平均点が上昇するものと思われませんが、上昇の幅は学力層によって開きがありそうです。

【出題内容】

出題形式は、設問レベルで細かい変更があったほかは、昨年から大きな変更はありませんでしたので、比較的落ちついて対応できたことと思います。例年同様、新学習指導要領の実施を受けて、文章・資料の読み取りや表現力に重点をおかれた出題が多く、今後もこのような傾向が加速していくと考えられます。

【国語】

- 難易度…全体的に難しく、平均点は昨年同様50点台になると予想されます。
- 構成…第一問が2点減り、第四問が2点増えました。
- 第一問（漢字・慣用句・実用的文章）…問一の漢字の読み書きが2題減りましたが、問二に熟語の一部を答える問題が2題出題されました。問四(四)は、根拠に乏しく、迷った人が多かったのではないのでしょうか。(五)は、Aの特徴に気づき、簡潔に表現できたかどうかポイントです。
- 第二問（文学的文章）…記号と抜き出しは平易。記述(特に問三、問五)は難しく、得点率は低くなると予想されます。
- 第三問（説明的文章）…問二を除けば、比較的取り組みやすかったと思われます。
- 第四問（古文）…1題増え、点数は2点増えました。文章は、内容も単語も難しめ。問三は、口語訳ができただけでは解けない問題で、文章の読解力が問われます。
- 第五問（作文）…会話の中から選ぶ形式は初めて出題されましたが、身近な題材であり、「意見」も読み取りやすいため、取り組みやすかったと思われます。

【数学】

- 難易度…第三問, 第四問が読み取りやすく, 難問も少ないため, 例年にくらべて取り組み易かったと思います。上位層の得点が伸びて平均点は上がると予想されますが, 第二問に解法の工夫が必要な問題が多いなど, 中位以下の生徒にとっては例年同様に厳しい問題が多かったと思います。
- 構成・形式…第三問が, 1次関数(直線)のグラフと図形との融合問題として出題されました。それ以外は例年通りです。
- 第一問…難問が少なく取り組み易いですが, 8(回転体の体積)など, 中・下位の生徒にとっては苦手な出題もありました。
- 第二問…昨年同様, 各問いの(2)は解き方の工夫を要求される問いが多く, 中・下位の生徒にとって得点しづらかったと思います。1は文字式を使いaとbの関係(差が7)からaとbの組み合わせを絞り込む必要があります。4は方程式の解から問題の答えを求める計算が必要でした。
- 第三問…直線のグラフに三平方の定理, 相似, 対称移動など図形的な要素を組み合わせた出題。例年に比べてかなり取り組みやすい見た目ではありますが, 数学的な直観力も必要で, 時間がかかった人もいるかもしれません。(4)の「最短距離」は, 16年入試でもほぼ同内容が出題されており, 過去問を使っただけの演習が役に立ったと思います。
- 第四問…全体に素直な出題。証明も易しく, 例年にくらべて取り組みやすかったと思います。

【社会】

- 難易度…昨年よりやや易しい出題でした。平均点は昨年(47.8点)より上がることが予想されます。
- 構成・形式…例年通りの大問構成で, 全体の小問数は30問。配点は各大問とも20点でした。形式は, 例年と同様でした。また, 資料の読み取り・活用を意識した問題が多くみられました。
- 第一問(地理)…北アメリカ州に関する出題でした。3(2)の記述問題は, 資料D, Eのグラフ・表の情報と資料Fの地図の情報を関連づけて表現できたかどうかのポイントとなったと思います。
- 第二問(歴史)…日本の交通・通信の歴史に関する出題でした。5の記述問題では, 資料Aの内容は比較的分かりやすかったと思いますが, 資料Bから「情報や意見を広く伝える」ことを読み取り, 表現することは難しかったのではないかと思います。
- 第三問(公民)…地方自治のしくみと課題に関する出題でした。5(2)は, 資料Cの東根市の取り組みから「就業場所の増設」, 「子育て支援の充実」などを具体的に表現する力が求められました。
- 第四問(地理・歴史)…北海道地方に関する出題でした。4の記述問題は資料Cから北海道の農業の問題・課題点を, 資料Eから解決策を導く問題でした。「スマート農業」という言葉の意味を知らなくても, 技術例や効果などから言葉の意味を予測して解答する力が必要となりました。
- 第五問(歴史・公民)…日本における労働環境の変化に関する出題でした。4(2)の記述問題は, 資料B～Dをしっかりと読み, 表現する力が求められました。「就業」というテーマから思考力を試される問題となったため, 表現に悩む人が多かったのではないかと思います。

【理科】

- 難易度…記述形式の問題が難しかったものの、それ以外は標準的な難易度の問題が多く出題されていました。平均点は昨年と同様に60点を上回るものと思われます。
- 構成…例年通りの形式でした。全体の小問数は32問で、配点は第一問が36点、第二問から第五問は各16点でした。完全解答は2問、記述は5問、作図は1問でした。
- 第一問（小問集合）…消化（生物）、太陽系の惑星（地学）、水溶液（化学）、電気回路（物理）からの出題でした。どれも基本的な問題でしたので、取りこぼすことなく確実に得点したいところです。
- 第二問（生物・花のつくり、遺伝の規則性）…エンドウの花のつくりの観察と、交配実験に関する問題でした。3の記述問題は、図からエンドウの花のつくりについて判断する必要があり、書きにくく感じた人も多かったかもしれません。その他は基本事項に関する出題やよく見られる内容の出題が多く、解答しやすかったと思われます。
- 第三問（化学・化学変化）…鉄の化学変化に関する出題で、化学がいろと製鉄が扱われました。1(2)の記述問題と2(2)の計算問題は、十分に対策ができていれば得点できたのではないのでしょうか。
- 第四問（物理・浮力）…浮力に関する出題でしたが、密度を求めたり、プラスチックの種類の判別をしたりするなど、物理と化学が融合した問題でした。4(2)の記述は、判断する手順等を説明するこれまでにない内容でしたので、とまどった人も少なくなかったのではないのでしょうか。
- 第五問（地学・空気中の水蒸気）…雲ができるしくみに関する問題でした。1～3はオーソドックスなよく見られる問いですので、確実に得点したいところです。4は思考力が必要とされるやや難しい内容でした。

【英語】

- 難易度…全体として、昨年よりやや易しく、答えやすい問いが多かったように思います。
- 構成…各設問で多少の出題形式・配点の変更はありましたが、ほぼ例年通りの出題となりました。
- 第一問（リスニング）…出題形式・配点は昨年同様でしたが、問題1で多少の形式変更がありました。問題3は、一部分ではなく全体を聞き取って理解することが求められる出題でした。
- 第二問（小問集合）…出題形式・配点は昨年と同じでした。難易度も例年通りで基礎的な出題だったと思います。
- 第三問（長文読解）…1題多少の形式変更があったほかは昨年と同じ出題でしたが、配点は全体で2点増えました。オーソドックスな内容・展開の文章で、読み取りやすかったのではないのでしょうか。各問いも解きやすいものが多かったと思います。
- 第四問（長文読解）…設問数は昨年と同じでしたが、中程度の長さの会話文を用いた目新しい出題がありました。配点は全体で2点減りました。題材もコンビニという身近なもので、理解しやすかったのではないのでしょうか。
- 第五問（英作文）…昨年と同様に、1文・3文以上で表す英作文2題の出題で、配点にも変更はありませんでした。資料ではなくイラストを提示する形の出題になり、読み取る英文の量は少し増えましたが、書く内容はイメージしやすかったと思います。